【別紙様式】

課題名：ASIAGAP HIOKI茶部会による持続的な茶産地づくり

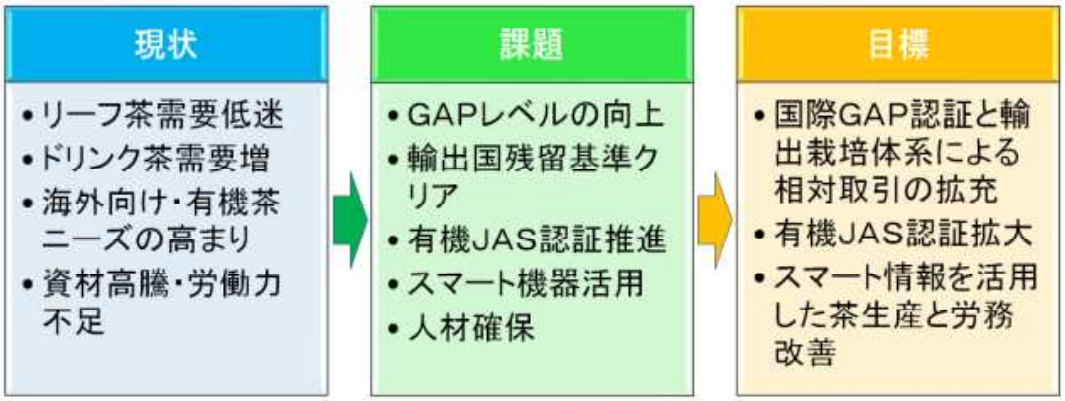
所属名：鹿児島地域振興局農政普及課日置市駐在
発表者名：富濵　毅

＜活動事例の要旨＞

日置市茶業振興のため，国際水準ASIAGAP認証の取得，海外向け・有機ＪＡＳ認証向けの栽培体系確立，茶市場スマート情報の活用や労務環境改善，地域資源循環型堆肥活用等によって，茶農家の経営改善を支援し，安心・安全で持続的な茶産地づくりを推進した事例である。

１　活動の課題・目標と策定過程

(1)　課題・目標と設定理由



リーフ茶の需要変化によって市場価格は低迷しているが，国際水準ＧＡＰを実践して生産されたドリンク茶や海外向け有機茶の需要は増加している。一方，資材高騰や担い手・労働力不足が顕著となり，地域資源の活用や作業の省力化・スマート化，人材確保等が課題となっている。

日置市では全工場がASIAGAPを取得後「ASIAGAP HIOKI茶部会」を設立し，地域全体で上記課題に取り組むこととし，関係機関はその支援を開始した。

農政普及課は，①ＧＡＰ認証取得および輸出栽培体系確立・指導による相対取引の拡充，②有機JAS認証茶生産拡大支援，③スマート情報を活用した茶生産と労務環境改善支援，の３つの目標を普及指導計画に位置づけた。また，調査研究では，「茶市場スマート情報の活用による品質改善」と「有機茶栽培における施肥・病害虫対策」について解決策を探り，その結果を生産者に指導した。

これらにより，持続的な茶産地づくりの実現を目的とした。

(2)　計画の策定過程

ア　ASIAGAP HIOKI茶部会設立に向けた生産者と関係機関との調整

イ　台湾輸出に向けて展示ほ等の設置，栽培暦作成，有機農業に適した団地の選定，有機栽培での病害虫対策の検討，食品ロス回収堆肥「よかんど」生産工程確認

ウ　茶市場スマート情報活用のための統計資格取得と外国人材確保計画

２　普及指導活動の内容

(1)　活動の経過：「ASIAGAP HIOKI茶部会」設立（Ｒ３年），スマート情報活用とポストコロナ事業による新被覆資材の導入（調査研究，Ｒ２～４年），有機茶栽培施肥･病害虫対策（調査研究，Ｒ２～４年），食品ロスリサイクル有機堆肥「よかんど」の活用（Ｒ３年～），アグリノート導入（Ｒ４～），外国人材確保事業（Ｒ４～）。

(2)　指導・支援の体制：「ASIAGAP HIOKI茶部会」の指導･支援体制として，農政普及課は輸出・有機茶生産体制確立，スマート機器・外国人材活用等，ＪＡさつま日置はＧＡＰ認証・相対取引窓口等，日置市は施策･補助金支援等をそれぞれ担当した。

３　普及指導活動の成果

(1)　課題及び目標の達成状況とその要因（Ｒ４実績）

・相対取引の拡充：地域全体でのASIAGAP取得と台湾輸出生産体制の確立により引き合いが高まり，相対取引金額は約２億円（Ｒ１年比125％）となった（図１）。

・有機ＪＡＳ認証茶の拡大：輸出ニーズが高まり，有機ＪＡＳ認証茶園の収益性は著しく改善された（図２）。有機ＪＡＳ認証支援や，ドリフト対策，網もち病防除体系等の拡充により，認証茶園は23ha（H29年比218％）となった（図３）。

・ＳＤＧｓに向けた取組：食品ロス回収堆肥「よかんど」の有機ＪＡＳ適合資材登録を支援し，同資材を施用した有機茶で「オール日置茶（玉露・抹茶）」を製造・販売し，地域にＳＤＧｓ意識が波及した（図４）。

・茶生産のスマート化と労務環境改善：茶市場スマート情報により荒茶特徴と単価の関係を可視化した。水色色合改善の気運が高まり，事業により新被覆資材を導入し，品質改善に取り組んだ。また，営農支援ソフト「アグリノート」によるほ場管理を開始し，業務を効率化すると共に，外国人技能実習生の生活環境改善のために，事業によりアシスト自転車を導入し，通勤や買物の時間を短縮した。

図1　相対取引の金額

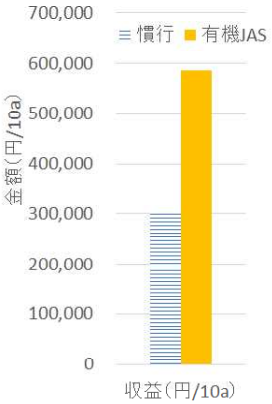


図2　有機JAS共販単収実績

図3　有機JAS認証茶園面積の推移

図4　オール日置茶

(2)　活動に対する生産者・農家の評価（外部評価会の農業者からのコメント等）

・地域の生産目標が明確に設定できて，モチベーションも向上した。

・ＳＤＧｓなど，環境への配慮はこれから考えていかなければならない。

・日置の成功は，他産地へと波及し，鹿児島の茶の発展になると思う。

・外国人技能実習生の労務環境改善は今後の受け入れに有利になると思う。

(3)　地域農業振興への貢献

・日置市のＧＡＰや有機茶への取組は，他茶産地の団体認証の取組に波及した。

・食品ロス堆肥の活用は，焼却施設からのCO_2排出削減（年間350t）に貢献し，市民と生産者のＳＤＧｓへの関心が高まった。

４　今後の普及活動に向けて

(1)　今後の課題

・抹茶原料となるてん茶やもが茶の生産と米国輸出

・超低コスト・省力生産，労働環境改善およびＳＮＳ等による労働力確保

(2)　今後の活用に向けて

ASIAGAPとＳＤＧｓを融合した取組をアピールし，「日置茶」ブランドの確立を推進する必要がある。